

建設情報誌

C-net 通信

Construction

さが

『C-net通信』

後

2017年4月12日

発行所:(株) NSC

<http://www.nsci.co.jp>

■会員料金■

平成29年度研究成果発表会

原社長が挨拶

技術を継承し会社発展を



挨拶する原社長

日本建設技術(株) (原裕社長、本社: 唐津市北波多) グループの平成29年度(第14回)研究成果発表会が8日、唐津シーサイドホテルで開催された。来賓やグループ企業の社員ら約170人が出席。同社の平成28年度の活動実績と大深度集水井戸施工時の課題についての現場報告が行われた。併せて成績優秀社員と資格取得者の表彰や新入社員の紹介の後、来賓との懇親会などで新年度に向け気持ちを新たにしました。

毎年4月のこの時期に開催しており、原社長が冒頭、「建設業は厳しい状況が続いている訳ですが、そうした中でも、建設業、建設関連業を営む者として、受けた仕事に対してより良い成果品を発注者に返していくことが一番の使命だと私は思っています。今年入社した新入社員も先輩から技術を受け継ぎ、持続可能な会社にしていくことが大事なことです。昨年度はゼロだった評価点80点以上が今年度は8人も出てきた。これを継続して、新入社員も受け継いでいってもらえればと思います。今年は、更なるスマートな会社作りをこの建設業界のなかでやっていければ、と思っています」と挨拶した。

続いて、古川康衆議院議員ら来賓の挨拶があり、原社長と同社建設&コンサルタント事業本部建設3課の石原誠太郎課長代理が成果発表を行った。発表後、佐賀大学低平地沿岸海域研究センターの荒木宏之センター長が講評した。また、成績優秀者と資格取得者など表彰式と新入社員の紹介があった。新入社員は、日本建設技術が11人、精工コンサルタントが4人、大和地研が1人。

発表は、原社長が『2016年度のあゆみと建設業と農林水産業の連携シンポジウムで発表して』の演題。石原氏が

日本建設技術(株)グループ



参加した社員ら



成績優秀者などの表彰

『集水井戸施工時の課題について』のテーマで各々話した。原社長は、羽田空港国内線第一旅客ターミナル屋内庭園「花の楽園」のミラクルソルを用いた池の水質改善、仮屋験潮場の保守業務における国土地理院長感謝状やNEXCO西日本の優良工事安全表彰の受賞、国土交通省の建設マスターと建設ジュニアマスターの受賞、精工コンサルタントの本社社屋の起工式などを報告した。

また、石原氏は、多久市の鬼ヶ鼻地区2号集水井戸の施工事例を報告。深度57mの集水井戸で、坑内と地上の合図応答が困難なため、坑内途中に合図者を配置し、同時通話無線機を使用し、事故・災害防止対策を取った。懸念材料だった湧水による掘削中のライナープレート背面地山の崩壊現象は、ラフタークレーンを使用したことで排土サイクルの大きな短縮ができ、掘削工程の短縮に繋がった。さらに、工事着手前の施工計画と発注者との事前の協議・検討を十分に行い、具体的な対策を取り入れたことが、工期の短縮と評価に繋がった、と総括した。

第2部の懇親会では、社員や来賓の国会議員や県市会議員など約160人が出席。同社の田中慎一郎常務の挨拶の後、和やかに懇談した。

【4月10日HP掲載】